

街かど gallery



人知れず明るく咲いているたんぽぽ。外来種との共存で、その可愛らしい姿は、年中見られるようになった。

たんぽぽと言えば、花の後に出来る白い繊毛に、ふっと息吹きかけると、風に乗って飛んでいく、小さな落下傘のような種がいじらしい。

八女川柳会 安達 昇



今月の川柳

本紙に毎月掲載しています安達昇先生の「今月の川柳」が3周年（36点）になります。これを記念して「クラッシー今月の川柳展」が開催されます。同時企画として「八女川柳会展」会員12名・24点並びに「川柳つれづれ展」安達昇氏の川柳30点も開催されます。多くの方々にご観覧頂ければ幸甚です。

会期 5月9日（金）～5月15日（木） 会場 おりなす八女  
お問い合わせ ☎0943-22-3779 安達

を始め「はじめるその時が0才だ」との話に感銘を受けたのがきっかけです。早朝に音を立てることなく静かに墨の香りの中で描く幸せは格別です。また真っ白い紙に一筆入れる時の緊張感は何とも言えません。まだ満足のいく絵は一枚としてないのですが先生の手直して躍動する絵に変わり感動を覚えます。

墨絵はもろんフアッション性も素敵で優しいお人柄の先生と、明るく楽しい教室の皆様に出会えたことに感謝し、私の墨絵も0才から歩きだせる日を夢見て楽しく学びたいと思います。



立花町兼松 高橋 博子

私が墨絵を始めるときは、つたのには、ある男性の哲学者が退職と同時に踊るバレエ

楽しい仲間たち

松原サントスF.C.



松原サントスF.C.です。筑後市の松原小学校区の児童を中心に、毎週月、水、金曜日に松原小学校グラウンドで練習に励んでいます。土曜日や日曜日は、公式戦やカップ戦、練習試合などで、日ごろの練習で身につけた個人技やパスワークを試し、できたところは、よりうまくできるように、できなかったところは、また練習を重ねてできるよう、日々がんばっています。練習は、夕方7時まで行っており、特に冬場は早く暗くなりますが、ナイター設備のおかげで思い切り汗を流すことができます。

また、チーム力と個人力アップのため、夏合宿や遠征試合などを行っています。皆で施設に泊まったり、大会開催地のチームの選手宅にホームステイしたりしながら、まじめに楽しくサッカーをしています。

チームのメンバーには保育園児もいます。園児は週1回の練習ですが、小学生のお兄さん達に負けたくない走りまわっています。小学校に入ってもサッカーを続ける選手も多く、そうした選手達が現在のサントスF.C.を支えています。4月下旬からは、いよいよ全国少年サッカー大会筑後地区予選が始まります。目標は、地区大会を勝ちあがり福岡県大会に出場することです。そして、最高のプレーをして、県大会で優勝したいです。

サッカーに興味がある人、やってみたい人、ぜひともサントスF.C.と一緒にプレーしましょう!! 練習日のグラウンドで待っています!

監督 松野 正彦

「三徳の家庭菜園」 ②①

【オカヒジキ】～爽やかな食感で作りやすい伝統野菜～

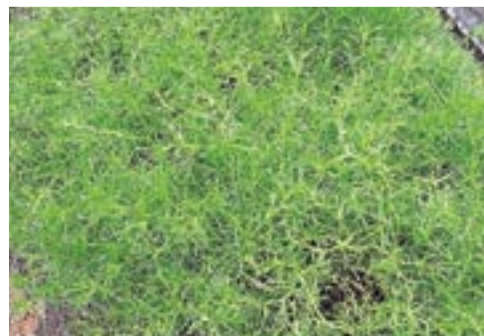
オカヒジキは、東アジアの海岸砂浜に広く自生し、我が国では江戸時代から食用にされていた数少ない日本原産の野菜です。アカザ科オカヒジキ属の一年草で、葉の形状が海藻のヒジキに似ていることから、「オカヒジキ」の名が付いたと言われています。

先端の若くて柔らかな茎葉部分を摘み採って、熱湯でサッと茹でてから流水にさらして調理すると、シャリッとした爽やかな食感と鮮やかな緑色を楽しめます。

オカヒジキはカルシウムやマグネシウム、鉄分等のミネラルとビタミン類を豊富に含む栄養的にも優れた緑黄色野菜で、サラダ、和え物、おひたし、汁の具やいため物などに利用できます。生育適温が20～25℃で4月から6月中旬にかけて播種を行い、5月から8月の間に収穫を楽しみます。

酸性に弱いので、畑は苦土石灰などで土壌酸度を調整しておき、堆肥とともに基肥として窒素、リン酸、カリを10a当たり10kg程度施用し、幅30～100cmの畝を立てます。この畝に深さ1cm程のまき溝を15～20cmの間隔で条状につけ、約1cm間隔で種まきをします。その後、本葉が出た頃と本葉3～4枚の頃に間引き・土寄せを行い、最終的には10cm前後の株間とします。別に育苗して定植するのも良いでしょう。

種まきの40～45日後の草丈が15cm位になった頃から、先端部の若い茎葉をハサミで切り採り収穫します。株元から3～4cmを残しておく、その後にはわき芽が出てきて収穫を繰り返すことができます。害虫や病害は非常に少なく、無農薬栽培が可能です。



左上;本葉4枚時。この頃に最終株間(10cm前後)にする。  
左下;セルトレイで育苗(移植でも良い)  
右;収穫期に入ったオカヒジキ

福岡県農業大学校 非常勤講師 林 三徳

矢部川源流・杣の里の四季 ③①

ナズナ(薺)[アブラナ科]



ナズナは春の七草で有名。越年草で田畑、荒地、道端など至るところに生える。

ぺんぺん草やシャミセングサという別名がよく知られている。

花の下に付いている果実の形が、三味線の撥(ばち)によく似ており、これで「ぺんぺん」と三味線を弾くことからきている。

民間薬として陰干ししたのちに煎じたり、煮詰めたり、黒焼きするなどしたものは肝臓病・解熱・高血圧・止血・腹痛・便秘・利尿等々各種薬効に優れた薬草として用いられる。

荒れ果てた様子を表す表現として「ぺんぺん草が生える」という表現も有名である。(黒木町) 松尾 重根